NIE実践報告

1．タイトル：**生徒が社会科の公民的分野で学んだことの実際を新聞記事の事実を通して知る**

2．学校名

長野県上高井郡小布施町立小布施中学校

3．実践者名（代表者名）

玉井広観

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会（公民）　32人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞を使った授業、法律案が成立するまで「新テロ対策特別措置法を例として」

7．目標(狙い)

公民で学んだ「国会の仕組みと仕事」に関連して、新聞記事や社説を使って、「旧テロ対策特別措置法」・「新テロ対策特別措置法」について、調査活動を行い、自分の 意見を持ち、話し合いを行う。

8．評価の視点

「旧テロ対策特別措置法」・「新テロ対策特別措置法・について、新聞記事や社説を利用して、積極的に調べ、それに対して自分の意見を持ち、話し合いの時に積極的に自分の考えを述べることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

大単元「現代の民主政治と社会」の中の小単元「国会の仕組みと仕事」で学んだ「法律案のできるまで」に関連して、実際の例として、「新テロ対策特別措置法」について、新聞で調べた。（5時間扱い）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

第1時　「テロ対策特別措置法」と「新テロ対策特別措置法」の内容と違いを知る。
第2時　「テロ対策特別措置法」の実績、海上自衛隊の活動範囲、外国艦船の警備活動の効果を調べる。
第3時　「新テロ対策特別措置法」はどのように成立していくのだろうか。
第4時　日本の自衛隊は、「テロ対策特別措置法」や「新テロ対策特別措置法」で、なぜ外国艦船に油を供給しなければならなかったのか調べる。
第5時　「新テロ対策特別措置法」に賛成意見と反対意見があることを知り、その上で自分の意見を持ち、賛成と反対の立場で話し合いをする。

（指導上の留意点）

①新聞記事は難しい部分もあるので、調査活動の新聞記事は、教師があらかじめ目を通し、必要なものを生徒に与える。
②「新テロ対策特別措置法」に賛成と反対の社説の内容をつかませるために、じっくりと時間を取る。
③賛成の立場と反対の立場で意見を言わせる、時は、なるべく多くの生徒に発言させる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「テロ対策特別措置法」・「新テロ対策特別措置法」は中学生にとって難しい題材だったが、国会の仕事、憲法第9条とも関連させて、生徒たちは教師が与えた新聞記事や社説をよく調べ、自分なりの意見を持ち、話し合いでは多くの生徒が自分の意見を出すことができた。

12．成果と課題

（成果）◎新聞記事はあるテーマについての調査活動に有効であるということ（但し、何ヶ月もの単位で毎日、新聞記事を見ていることが必要）。　◎授業で学んだこと（今回は「国会の仕組みや仕事」）と新聞を結びつけて考えると、生徒の興味をより喚起できること。
（課題）◎新聞記事を使った授業では、学習指導要領での位置づけをしっかりする必要がある。　◎あるテーマの調査で新聞記事を生徒に与える場合は、教師があらかじめ目を通してから与える事が必要ではないか。
◎生徒から学習問題を出させるというよりも、こちらから「新テロ特措法」の記事を与えることになった。